

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079600526		
法人名	医療法人ひまわり会		
事業所名	グループホーム光		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121 (電話) 0947-72-7410		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 23 日	評価結果確定日	令和 5 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は川崎町の中心街に立地しており利用者様の買い物や外食などにはとても便利だ外部との交流も図りやすく、また、建物の裏側にはのどかな田園風景が広がり自然の中の散歩には最適な場所です。認知症介護に関しましては家庭的な暮らしの中で権利や尊厳が保証された生活とケアへの継続、職員の質の向上・技術向上を常に目指し積極的に取り組んでいます。また利用者様の重度化への対応は母体となる協力病院は隣接し、24時間対応で医療連携を図っています。平成30年10月から当施設にて看護職員を配置し早期対応により重度化防止に取り組み介護体制と医療ニーズに応じています。今後ますます高齢化が進んでくる中で高齢者が社会から孤立することなく楽しく生活できるように役割を担っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 9 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

鉄骨造り2階建ての1・2階に2ユニットを有する事業所である。事業所周辺は商業施設があり県道沿いでもあり利便性は良い。法人が運営する病院が併設され、事業所には看護師を配置している。毎月の勉強会や身体拘束廃止委員会など積極的に学ぶ機会を設け、全職員に研修資料を配布するなどして周知している。重度化や終末期についても積極的に取り組んでおり、母体法人と情報共有している。運営推進会議を活用し事業所内の情報を報告している。家族からの要望等を管理者間で話し合い、運営に反映させている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共にゆっくり笑顔で」を理念に掲げ馴染みの場所と人との関りが持て安心できる生活の場となるよう心がけている。職員には入職時に理念を伝えている。	開設当初に職員で検討した地域密着型の視点のある理念を掲げている。「地域と共にゆっくり笑顔で」の理念をホールに掲示している。月1回のミーティングでも理念を取り上げ、職員間で理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の調達を地元の魚屋、肉屋、物産センター、農家から行っている。徒歩数分の美容院から先生に出向いていただきカットして頂いたり、ヘアカラーを希望する方は美容院に行っている。	地域の商業施設等の地域資源を活用している。コロナ禍前は地域との交流を行っていたが、現在は控えている。認知症カフェの開設に向けて地域包括支援センター職員と家族とのヒアリングを行い、検討している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習をグループホーム光にて、包括支援センター職員の方々主催で令和5年4月18日開催いたしました。ご家族様、病院職員の方にも参加して頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度4月より運営推進会議を再開しています。参加者には、意見や要望を求め会議での意見が反映できるよう取り組んでいます。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。利用者状況や行事予定、研修の実践状況等を報告している。運営推進会議開催前にアンケートを配布して意見を聴取し、職員間で話し合い、運営推進会議で報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常生活自立支援事業などに該当する事例があり、相談・支援につながるよう話し合いを持ちました。他市町村との包括職員間で連携を図って頂きスムーズな情報共有ができました。	2ヶ月に1回発行している広報誌「光たより」を地域包括支援センター職員に渡し、事業所の状況を共有している。内部研修に地域包括支援センター職員が講師としてきていただく等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での身体拘束廃止に向けての理解を深め、職員間での共通の認識が出来るようにしている。また、病院関係者にも意見を求めるなどしている。	玄関等は施錠していない。年4回、身体拘束廃止委員会を開催し、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年2回、職員研修を開催し、職員は知識を深めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と権利擁護のテーマで勉強会を開催している。外部から講師として招き偏った見方にならないよう気をつけている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にパンフレットの配布、包括支援センター主催の勉強会に参加するなどし学ぶことができる。	契約時にパンフレットを用いて家族等に説明を行っている。権利擁護担当者を配置し、担当者与管理者は年1回の研修を開催し、研修資料は全職員に配布し、知識を深めている。研修記録を整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得が得られるよう心掛けている。可能であれば複数人での立ち合いを求めたり、説明する側も複数人で行う場合もある。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議で意見交換行う。要望書に記載していただくなどして出た意見は早急に反映できるよう話し合っている。	利用者は日常的に職員に意見や思いを伝えられる機会がある。面会後に職員は家族からの意見を聴いている。事業所出入口に意見箱を設置し、希望を言いやすいよう配慮している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で報告・意見交換を行い反映させている。	業務を通じて管理者は職員の意見を聴いている。月1回の勉強会で職員から出された意見を基に話し合いを行っている。職員がケア会議においてケア方法を話し合い、職員全員で共有できるよう会議録を作成して回覧している。ユニットの管理者同士で話し合い、意見を運営に反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の確保・定着に向けた改善策を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用職員の年齢層も幅広く現役職員も幅広い年齢層で活躍している。看護職員もあり、利用者への体調面などサポートできている。	定年はあるが、再雇用契約で延長することができる。無資格者でも採用し、資格取得に向けてバックアップしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症の理解と介護、身体拘束廃止に向けての理解、高齢者の尊厳虐待権利擁護の理解というテーマを勉強会で取り上げ意見交換行っている。	年2回、人権に関する研修を実施している。研修記録を作成して保管しており、職員は研修記録を自由に閲覧することができ換行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に参加勤務体制の調整を行いサポート、外部研修の参加をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為他の同業者との交流は中止となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを持ちながら本に様より要望を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴をふまえ今後のサービスに反映できるようご家族様と対話をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人とご家族様の状況、レベル確認、把握をしスタッフ同志情報を共有しなるべく希望に応じた支援をするよう心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として対応を行っている。要望などに傾聴しできるだけ満足の行くように要望に応える努力をしている。ダメなことはきちんと説明し納得して頂くまで説明を繰り返す。そうして信頼を少しずつ得ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪されたときは、世間話もしながら、利用者様の近況報告を行っている。また、遠方のご家族様には特にTEL報告、ひかりだよりを郵送している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で馴染みの人名や場所をテーマに話の内容を広げたりアルバムを開いたりして会話をしている。	利用者や家族の希望に応じて、馴染みの美容室に行くことを支援している。家族や友人との年賀状・暑中見舞いの代筆をして、馴染みのある人との関係が継続できるよう支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時は合わない利用者同士を離しているがレクをするときは隣り合わせ、円になって行っている。声掛けを多くするようにして、楽しい時間が過ごせるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	包括支援センターと連携をとりながら情報を頂き訪問したり連絡をとったりしフォローしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を話してくださる方は稀ですが、生活支援を行いながら思いを把握できるようにコミュニケーションを図っている。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望の把握に努めている。血洗いなど自宅で行っていた習慣を家族等に確認し、事業所内でも継続できるよう支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様家族に昔の話を聞いたり、会話の中から情報を得たりしてサービスの提供を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場であり、24時間を通して状態の変化を観たり、関わる時間を多く持つことで有する能力を見極めて行くように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に評価を行い、各担当者がモニタリングを実施、計画・目標の変更を行っている。	計画作成担当者が現場の職員から心身の変化や生活の現状などを聞きとり、計画に反映させている。車いすから移動手段を歩行器に変更したい時などには、担当医の意向や指示内容を確認している。介護計画は利用者や家族に確認いただき、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や関りの中から気づいたことや変化等職員間で共有し今後の支援をどのようにしていくか話し合っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に沿えるよう皆で意見を出し合い検討している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベントの関係者と連携し、施設を訪問してもらったり、情報を入手したりして地元の生活を楽しめるよう工夫している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のなじみのかかりつけ医に定期的に応迎、受診していただいている。受診結果はご家族に必ず報告している。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。受診や内服薬処方管理など、所定の専用カレンダーに記載をしながらの管理がなされている。受診に同行した職員が状態や処方内容などを家族に報告している。担当医と家族が事前に話した内容について家族から聞き、職員間での情報共有がなされている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院と常に連絡を取り、入居者の状態を把握してもらっている。急変時には、すぐに対応してもらえる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、定期的に面会または治療状況の確認を行い、情報を職員間で共有し、ご家族様へ報告を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の病院と連携を図りながら、重度化した場合に対応できるよう準備している。また、必要に応じて、ご家族と看取りについての話し合いを行い、希望により看取りケアを行っている。	重度化や終末期のケアや支援方針は、意向確認書で説明し、事前指示書で家族からの同意を得ている。事前に担当医と家族が話した内容について確認し、職員間での情報の共有がなされている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会や、医療機器メーカー社員による研修会、併設病院の専門職による勉強会等を定期的に開催している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回、併設病院とともに、防災・水害・消防訓練・避難訓練を定期的実施している。日中・夜間を問わず、想定した訓練に取り組んでいる。	マニュアルが作成されている。避難訓練は年２回、消防署との合同訓練のうち１回実施されており、記録物も残されている。夜間想定避難訓練は実施していない。また、避難訓練を実施する際に、地域住民に呼びかけを行っていない。備蓄品については、３日分以上の缶詰めや飲料などが準備されている。	年２回のうち１回は夜間想定訓練を実施してほしい。また、非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人権を侵害することのないように、施設の方針を明確にし、職員間でその都度話し合いをし対応を行っている。	排泄の失敗があった際は、さりげない言葉かけや対応に配慮している。プライバシーに関しても、家族以外からの問い合わせについては話さないことを勉強会で周知し、徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、利用者様が何を希望されているか、選択肢が広がるような声掛け・環境づくりを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように声掛けを行い、利用者様一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関心がない方がほとんど。髪の毛は蒸しタオルで整え、櫛でとく事等、洋服が汚れていたら着替えるなどの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、皆さんでテーブルを囲み会話されながら食べて頂いたり、お盆を拭いていただいたりされている。	職員と利用者は一緒に食事の準備や片づけを行っている。夕食は隣接する医療機関の栄養士が作った食事を利用者と職員は一緒に食べており、食事を楽しむ雰囲気づくりに努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた食事・水分量を提供している。糖尿病の方や高血圧の方もおられ、栄養士よりアドバイスももらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助が必要な方は必ず口腔ケアを行っている。自分でできる方も確認している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフが意見を出し合い、一人一人に合ったオムツサイズ、排泄方法を行っている。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。2時間毎の声かけ誘導もなされている。また、職員は尿意のない利用者がトイレで排泄できるよう、タイミングを見計らって誘導して支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護スタッフと連携を図り、下剤の調整をしたり、排便の量・形状などの報告をしている。便秘気味の方には、水分を少しでも摂っていただけるように本人に説明している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴があまり好きでない方や「今日は入浴したくない」という方もおられ、本人のペースに合わせた入浴をして頂けるようにしている。	基本的に週2回の入浴支援を行っているが、希望に応じて入浴することが可能である。入浴を望まない利用者には、職員を変えたり、時間をずらしたりしながらの声掛け、誘導がなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせることを第一に支援しているが、生活のリズムが乱れることは極力無いように、その都度声かけを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を通じて、理解を深めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた事柄を提供したり、散歩や折り紙・読書等を、少しでも楽しんで頂けるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見や紅葉を見に行ったり、美容室同行や希望に応じて外出されている。	中庭で散歩をしている。週1回程度、近隣のスーパーや日用品店に、ドライブも兼ねて外出している。家族と外出に出かけることも可能である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として管理している。買い物代行したり、同行したりすることもある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれ、ご家族様と会話をされている方がおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全かつ快適に過ごせるような環境になっている。花を飾ったり、季節ごとの作品を掲示している。	共用空間は、音や光に配慮しながら、家庭的で居心地の良い空間づくりの工夫がある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室だけでなく、共有スペースも広々とした空間があり、入居者は好きな場所で自由に過ごせるよう、レイアウトに気を配っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた家具等、なじみの物を使い、本人の希望に沿った配置にして、できるだけ落ち着いて過ごせる居室作りに力を入れている。	居室には家族や知人の写真が飾られている。持参品に制限はなく、自宅から使い慣れた寝具等が持ち込まれ、快適な空間が広がっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの身体状況に応じた物品の配置や、できるだけ自力で自分の事ができるような環境づくりを整える努力をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共にゆっくり笑顔で」を理念に掲げ馴染みの場所と人との関りが持て安心できる生活の場となるよう心がけている。職員には入職時に理念を伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の調達を地元の魚屋、肉屋、物産センター、農家から行っている。徒歩数分の美容院から先生に出向いていただきカットして頂いたり、ヘアカラーを希望する方は美容院に行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習をグループホーム光にて、包括支援センター職員の方々主催で令和5年4月18日開催いたしました。ご家族様、病院職員の方にも参加して頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度4月より運営推進会議を再開しています。参加者には、意見や要望を求め会議での意見が反映できるよう取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常生活自立支援事業などに該当する事例があり、相談・支援につながるよう話し合いを持ちました。他市町村との包括職員間で連携を図って頂きスムーズな情報共有ができました。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での身体拘束廃止に向けての理解を深め、職員間での共通の認識が出来るようにしている。また、病院関係者にも意見を求めるなどしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会で繰り返し行い、職員の理解や意識を深めている。また、ケアの仕方について職員が一人で抱え込み虐待等に繋がらないよう相談し、ケア会議等で話し合うようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方はいないが、必要な方がいる時は対応できるよう、今後も施設内研修等で理解を深めていきたい。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、納得出来るまで十分に説明を行い、同意を得た上で書面にて同意をいただいている。入退去対応のスタッフを配置している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、運営推進会議を開催できていなかったが、広報や電話にて施設状況をお伝えし、ご家族様からも意見をいただく事ができている。運営推進会議も先月より再開することができるようになった。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員が対話する事はほとんどないが、代表者は毎月1回施設訪問はされている。管理者と職員は、意見交換する機会も多く、施設長を通じ代表者へ伝えていただくようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・人事考課の実施を行っている。個々の実情に合わせ働きやすい様、勤務時間やシフトも柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用には、年齢制限等はないとのことである。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修にて、全職員への教育・啓発活動は行われている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在1名、認知症介護実践者研修受講中である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修時、長主病院や小規模多機能ホーム職員より参加あり。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の要望等を伺い、コミュニケーションを図っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時などに、ご家族様の要望を伺っている。また、面会時などにもご本人様の状態などを伝え、要望等があれば対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能な限り、必要な支援を提供できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来る事や特性を活かし、共に共同生活を行う中で、相互扶助に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時的に緊急事態宣言が解除されて、ご家族や親しい方達の面会が出来ていたが、今現在再び面会制限設けており、家族との交流が出来ていない。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	緊急事態宣言後より、ご家族様との面会はもちろんのこと、気分転換の為のドライブや外出も控えている中、職員が玄関先でご家族様に対応する時に、現在の心身の状態をお伝えするように心掛けている。携帯を持っている利用者様には、ご家族様にご協力いただき、時間があるときに電話をかけていただき、会話をしていただけるよう協力いただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や好みを把握し、気の合う利用者様同士と一緒に会話が楽しめるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも、ご家族の方より身内や知人の方の相談を受けることもあり、支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを図り会議をすることで、利用者様の思いや意向を聞き取り把握に努めている。困難な利用者様に対しては、スタッフ間で話し合いをしたり、ご本人の少しの表情の変化等を観察している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の中で行ってきた事をしていただいたりできない利用者様に対しては、アセスメントシートを利用したり、会話の中からヒントをいただき、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりにできる事は行っており、役割を助ける。心身状態に関しては、傾聴している。生活リズムも違うので、利用者様一人ひとりに合った生活が送れるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化あればその都度ご家族様に連絡し、医師・看護師・職員間で話し合い、ケア方針の変更をしている。生活の中でも課題があれば、話し合いを行うようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録だけでなく職員間で情報共有できるよう、申し送りノートを活用している。また、話し合いも行い、利用者様一人ひとりに合ったケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じて、臨機応変に対応している。ご家族様より要望があれば、その都度購入している。（メイバランス）		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全ての利用者様の地域資源を把握できていない。コロナ禍もあり、地域資源を利用できていないが、訪問美容室は継続している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様との連携をとりながら長主病院を受診し、その都度報告を行っている。整形や眼科などこれまでのかかりつけを利用されている利用者様もいる。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の体や皮膚等の観察、トイレ・オムツ交換時のパッドやオムツ内の観察、歩行の状態等、変化や気づきがあれば看護職に報告し、指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	GH2Fで勤務するようになって入退院された利用者様はいないが、Drやナースと看護職との連携はできていると思う。介護職にも、情報は共有できている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居段階の際に重度化、看取りの場合の意向を説明し理解して頂いた上で、ご家族様の希望に添う形で介護している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GH内にAEDを設置しており、定期的にAEDの講習を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設病院と共に、防災・消防訓練、避難訓練を定期的に行い職員の意識を高める様努めている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム光の方針を勉強会を行い、職員一人ひとりが利用者様を尊重している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをしご本人の希望を聞き、それを叶える様に話し合いをしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞き、居室で過ごしたい利用者様は居室にて、ホールで過ごされる利用者様もおられ、見守りを職員は行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自ら服を選ばれる方もおられ、職員が選ぶ時もあるが、おしゃれをされている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をしながらTVを観られる利用者様、食器洗いをされている利用者様がおられる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態にも注意し、本人が摂取しやすい形態の食事や水分を提供している。嗜好にも配慮している。食思低下時には、栄養補助食品等の活用を、栄養士よりアドバイスをもらい、栄養低下の予防に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の状態に合わせて、歯間ブラシや舌ブラシの使用等を行っている。本人が出来ない部分は介助を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレでの排泄をしていただき、本人の排泄の訴えやタイミングに合わせて対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、看護職員と連携を取りながら、下剤の調整を行っている。服薬についても、利用者様の意向を伺い話し合いながら行っている。水分摂取量にも気を付けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日の設定は行っているが、本人の意向や体調に合わせて、入浴日の変更や入浴用品の準備を行い、柔軟に対応している。入浴は午後からとなっているが入浴中は時間制限なくゆっくりと入浴していただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースや体調に合わせて、休息していただいている。居室だけではなく、ホールや座敷等、落ち着いた場所で過ごしていただく様にしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などあれば、看護師より伝達等きちんと行われている。誤薬事故防止の為、声出し確認・チェック表の記載を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・洗濯物量み・自身の洗濯など行われる利用者様もあり、見守りを行っている。嗜好品などは、本人に尋ね職員が買い物代行を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの規制緩和で、町外の祇園飾り山の見物ドライブ等に出掛けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭はお預かりするようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もいらっしゃる。自身で掛けることが困難な方には、職員が対応している。年賀状や暑中見舞いのハガキ等も支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ感染対策として、換気は常日頃より行っている。食堂ホールにおいては、日差しが気になる方もいらっしゃる為、その都度対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつを召し上がる席は決まっているが、その他の時間は窓際で景色を見ながら手作業されたり、ソファでテレビを観たりと個々の生活スタイルによって自由に過ごしていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族様と相談しながら、本人様にとって居心地良く過ごせる居室作りを行う。又、使い慣れた道具や思い出の写真など飾り、安心出来る空間作りを行う。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行や杖を使用される方、又は車椅子の方など、様々な方の移動がスムーズに出来るように広い空間を設けたり、手すりやテーブルの配置などを工夫し自立した生活が送れるよう心掛けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない